

放射線腫瘍学

【一般目標】

1. これまでの「がん治療学」の実習で学んだ基礎知識を踏まえて、放射線療法・手術療法・化学療法からなる集学的ながん治療を総合的に理解する。
2. 放射線治療全般について適応・方法・効果を理解し、臨床経験を積む。
3. 担当教官の指導の下に外来と病棟で医療にチームの一員として診療の現場に携わり、放射線治療計画の実際を経験する。
4. がん患者さんの診察を通して OSCE および各科の臨床実習で身につけた診療技能の向上を図る。
5. 広島大学病院で実践している高精度放射線治療について理解する。
6. 画像診断を踏まえたがんの治療法選択や患者の全身管理など、がん治療について幅広く学ぶ。

【到達目標（行動目標）】

1. がん診療の実践において必須とされる病期分類とそれに応じた標準治療について基本的疾患のいくつかで説明できる。
2. 基本的疾患のいくつかで、CT や PET などの画像診断に基づく病期診断と標準治療の提示ができる。
3. 放射線治療における基本的な疾患のいくつかについて標的体積の設定および照射方法の設定をふくめた治療計画が行える。
4. 強度変調放射線治療や定位放射線治療、画像誘導放射線治療などの最新のがん治療の治療計画と実施のプロセスを理解し、他者にわかりやすく説明できる。
5. 小線源治療においてアプリケータの標準的な留置および基本的な線源配置ができる。
6. 各種のカンファレンスや勉強会では発表の機会を設定する。この機会を活用して医療現場における適切なプレゼンテーションができる。
7. OSCE とこれまでの臨床実習で学んだ診察の手技を実践できる。

【注意事項】

1. 実習の前の週末にメールで予定を連絡する。
2. 初日は診療棟地下 1 階の放射線治療センター（001 受付）に 9 時 15 分に集合のこと。その週の実習に関するオリエンテーションを行い、スケジュールを調整する。
3. 診療参加型実習では主要なカンファレンスに指導医とともに出席する。個人的な事情などで参加が困難な場合にはあらかじめ相談する。
4. カンファレンスや勉強会では担当する症例の提示や勉強内容の発表を行ってもらう事としている。プレゼンテーションに際しては十分に準備をすること。
5. 患者さんおよび各医療従事者とのコミュニケーションを積極的にとる様に心がける。情報の伝達においては正確であることが大切である。患者さんから質問された事項に対しては、医学的に正しく、倫理的に問題がなければ実習中の学生としての責任の範囲を明らかにした上で返答して差し支えない。ただし、質問と返答の内容は担当する指導医に必ず伝えること。
6. 実習に際しては臨床に携わる医療者としてのふさわしい身なりを整えること。
7. 実習後には課題の提出を求める。課題の提出期限を厳守すること。

【当科の週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
9:00-	外来	治療計画	外来 小線源治療	外来	外来
13:30-	治療計画 医学物理	病棟 病棟カンファレンス	病棟回診	治療計画	治療計画
17:00-		放射線治療 カンファレンス			

上記のスケジュールは目安であり、担当する教官や診療の状況によって変更が生じる事がある。

【評価】

上記の到達目標が実習終了までにどの程度達成されたかを下記の各項目について評価し、点数化したものを成績とする。指導医による実習への取り組みの評価、診療に関する記録の内容、ポートフォリオに蓄積された内容、カンファレンスでのプレゼンテーションなどを総合的に評価する。知識に関してはカンファレンスや勉強会の際の質問に対する返答、教授試問や小テストの結果を通して習得の程度を確認して評価する。

評価項目	配点
指導医による学生の行動内容の評価（レポートを含む）	30
教授回診での患者提示のでき具合	20
カンファレンスでのプレゼンテーション	10
学生用カルテの内容	10
ポートフォリオの内容	10
教授試問	10
小テスト	10

担当教官

村上 祐司 (教授) : 指導責任者
西淵 いくの (准教授)
今野 伸樹 (助教) : スケジュール調整担当者
勝田 剛 (助教)

連絡先 housya@hiroshima-u.ac.jp

082-257-1545

【参考図書、文献】

1. 放射線治療計画マニュアル 2024 金原出版（実習期間中は閲覧可能とする）
2. がん放射線療法 2023 学研メディカル秀潤社（実習期間中は閲覧可能とする）
3. がん診療レジデントマニュアル 第9版 医学書院
4. TNM 悪性腫瘍の分類 第8版（日本語版） 金原出版